

「株式会社 姫路シティ FM21」

第 37 回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成21年9月26日(土曜日) 午後1時30分～午後3時15分

2. 開催場所 姫路市本町68イーグレひめじ地下2階 会議室

3. 出席状況

1) 委員総数 11名

2) 出席委員数 8名

3) 出席委員の氏名(敬称略、順不同)

有馬 妙子	井上 重義	岩成 孝
大谷 昭仁	岸田 直美	平間 由香利
宮本 節子	柳谷 郁子	

4) 欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

梅宮 功	衣笠 愛之	熊田智裕
------	-------	------

5) 会社側出席者氏名

白井 正敏	(専務取締役 放送局長)
山南 俊雄	(常務取締役 営業部長)
小幡 博	(営業企画 課長 兼 放送総務 課長)
小林 寛幸	(放送総務部編成制作担当)

4. 議題

資料をもとに説明を行う。

(1) 事業報告

- ・平成21年5月度からの事業報告

(2) 事業計画

- ・10月度番組編成について
- ・FMゲンキ杯ゴルフコンペについて
- ・社内番組公募制度について
- ・災害時の対応について
- ・社内組織について

5. 審議内容

事務局より資料説明のあと、質疑応答を実施した。

副委員長 県立大学での授業について補足をしたい。いまどきの学生は新聞も読まないしテレビも見ないものが多い。ラジオといえば、年配のメディアとと思っている。学生は実際にその場でFMの収録などをしてもらおうと歓声があがって感動がある。ラジオはこういうものなんだと初めて気づいている。防災についてラジオが重要ということもほとんど知らない。こうやって毎年、学部全員が取るような授業でやって頂ければ、環境人間学部の学生はラジオに触れる事が出来るので感謝している。

事務局 お呼びいただければこれからもぜひ対応させて頂きたい。

委員 アンケートの結果は各パーソナリティは見ているのか？

事務局 ディレクターに配布し、パーソナリティに対しても問題のある内容は削除した上で、全体研修会などで配布している。まとも次第、配布する予定である。

委員 これを出されると、やる気を出す者とそうでない者に分かれてくると思う。プロなので、声を聞いてそれをもとに自覚を持ってもらえたらと思う。もう一点。オリジナルキャラクターのゲッピーはどうなったのか？

事務局 今回配布したマイ箸については、文字入れ範囲が少ないために省いているが、別途製作した携帯クリーナーには大きく出している。

委員 姫路市のゆるきゃらも出てきているので活用してほしい。

事務局 アンケートについて、誰に公開するか迷った部分はあったが、アンケートを実施しているのはパーソナリティも知っているので、結果を公開しないということはどうかという事もあるので、出せるものはどんどん出して共有し、その上で聴いて頂いている方や審議委員の先生方にどう判断して頂くかということをやっていききたい。そうしないと、どうしても目先のいわゆる常連リスナーからの反応に頼ってしまう。それは非常に自分自身の可能性を狭めていくことになりかねないのでまずい。ただし、アンケートハガキといえども、200通ぐらいの回収であるので、それが全てではない。参考として使用している。

副委員長 アンケートに色々意見があるが、このまとめ方だと解らない。通常の

アンケートだと解釈をつける。継続してやっているのであれば解釈をつけてほしい。それを、どのように今まで生かしているのか。やった後やりっぱなしになってしまうので、本人に返して自己評価をしないとけない。

事務局

お配りしているものについては、生データに近いものである。アンケートが全てではないという前提にたちながら、日常のメールや問い合わせも含めて、年に2回、各番組の担当ディレクターとFMゲンキの全社員と常勤役員が、アンケートや社員の評価、メールや問い合わせを含めて、番組評価・意見交換をしている。3ヶ月・6ヶ月・1年という単位の中で、ラジオは短期間で大きく変わるというのは問題があるぶぶんもあるので、1年間という単位の中で見直しを図っている。今年は12月ごろから来年度分の会議を行う予定である。その場での、現実の声の参考資料として使用していく。今回4月に大きく編成を変えたが、アンケートの声を取り入れて変えた部分もある。例えば、リスナーからのメールをどう扱うか。来たメールを出来る限り紹介しようという姿勢を持っているが、母数が少ない場合は、毎日同じメールを紹介するということになりかねない。そのようなことについての苦情もあったので、反映している。FMゲンキの場合は、アンケートやお問い合わせ・ご意見で番組が微調整されていくということは多い。

局長

例えばアンケートの中でよく聴く番組、好きな番組というのがあるが、一番に多いのが「ギリギリ涼チャンネル」で19人。その次が「夕方交差点GENKIもって来い！」である。例えば、「飛び出せ街の元気人」は、ここにもっとランキングが高くなっていいのではないかとも思う。そういう意味では、数字そのものと取り組みのギャップはあるが、一応参考にするということになる。

委員長

200通あまりで母集団も少ないので、それだからこうしようということは間違いになりやすい。今までも継続して調査しているのか？

局長

フリーマガジンにアンケートはがきを付けているので、継続してやっている。

委員長

社内での企画などに参考程度で使用しているということか。

事務局

これだけで評価するという事は出来ない。番組ランキングを見ても解るが、パーソナリティが強い番組は、上がっている。元気人については、パーソナリティ性よりもゲストがメインであり、パーソナリティが目立たない番組ともいえるので下がっている。

- 副委員長 男性や女性、年代によって受けが違うので、もうちょっと踏み込んで分析した方が良い。色々なところで生放送をしていると思うので、そこでアンケートをとって反響を調べてはどうか。
- 事務局 取材先やゲスト出演者にアンケートをお願いするというのは良い。
- 副委員長 すでにフォーマットがあるのだから、取材時に配布し、投函するなり回収するなりすればよい。そうしないと、よく聴くリスナーが毎回同じ人が解答する、メールなども同じ人が出すということになると思うので、幅を広げるようにすると良い。
- 事務局 早速検討したい。
- 委員 姫路市以外の住所が無いが。
- 事務局 本日配布した数値データは、姫路市のみを抽出している。コメント資料については、全解答を反映させている。フリーマガジンは上郡や佐用、宍粟市などのスーパーや金融機関など、広範囲に配布しているが、電波はそこまで届かないので、内容がずれる可能性があるので、今回配布資料については姫路市のみでまとめさせて頂いた。
- 委員 70歳以上はあまり聞いていないということか？
- 委員 リスナーは自動車を運転する人が多いのではないか。
- 事務局 アンケートを添付している媒体の特性で回収が変わっている。今回商品券をプレゼントにつけたので、女性の割合が増えているのではないかと考えられる。
- 副委員長 クロス集計をかけないといけない。
- 事務局 実感では、ご年配の方にも多く聴いて頂いていると思われる。夜に演歌の番組を放送しているが、過去に誤って最新J-POPが放送されてしまったところ、翌日に10数件の電話がかかってきた。朝からずっと鳴っていた。
- 委員 この資料にも年配の方は演歌が楽しみであると書いてある。
- 事務局 こんなに電話がかかってくるのかとびっくりした。

副委員長 年配の方には、ラジオ深夜便など人気があると思う。アンケートに回答しないだけで相当あるのではないか。
高齢の方はラジオをつけっぱなしにされているようだ。

事務局 FMゲンキの深夜は演歌がノンストップでかかっているため、眠りへのBGMとして聴いて頂いているのではないか。気になるご回答を頂いた方には、手紙を書かせてもらっているが、寝たきりでずっと聞いているという返事を頂いたこともあった。夜中の演歌は変えられないと感じた。

委員 スタッフ研修会、懇親会はスタッフ全員が参加しているのか？
出席率は？

事務局 8割ぐらいが出席している。

委員 内容は？

事務局 勉強会について最初の1時間は白井局長よりコミュニティFMについて講義した。

委員 村上氏の講義は？ 去年か。

事務局 そうです。去年は村上氏に、パーソナリティ、ディレクターの心得、ラジオというのは聞いてもらうということを前提に、というような初心に戻った話をして頂いた。ベテランのパーソナリティも、「そうやったな、私らが始めのときはそうやったのに、ちょっと慣れてきたな。」というような意見をもらった。

副委員長 研修資料の地図は良いと思う。研修だけでなく、番組の中で防災放送の一部として使用しても面白いのではないか。市外から来た者は地名を聞いてもどこか解らない。防災クイズのような形で、入れたりするのではないか。色々なところで使ったらいいと思う。地名は耳で聞いただけではイメージしにくい。日ごろから訓練をしておかないと、イザという時に聴いても解らない。

委員長 これはネットにはあげていないのか？

事務局 アップしていません。FMゲンキオリジナルでやっている。

委員長 ラジオだけではよく解らないので視覚メディアもからめたらどうか。

事務局

普段ニュースは原稿になっているのだが読む人が解っていないと、聴いている側したら、「なんじゃそりゃ」ということになる。姫新線が姫路から佐用まで運行しているという情報があるとして、では播磨新宮はどこにあるの？という場合に、位置関係を把握していないといけなくはないはず。原稿が綺麗に読めているからいいとだけ思っているパーソナリティがいたらコミュニティメディアとして問題である。

地図を利用した講義については、養成講座の松岡講師より提案を受けて実施した。

副委員長

地図という発想は良い。私は出身が愛知だが、兵庫に来て解った事がいくつもある。兵庫は明石や神戸の人は大阪の方しか解らない。姫路の周辺は姫路に向かうルートはわかるが、周辺が解らない。中央に向かうという発想で、他に行くという部分が解らないということがあるようだ。だから全般にわたって学ぶということは良いことだと思う。

インフルエンザについて。ある種の災害に近いと思う。インフルエンザの時も災害時と同じようなシステムになっているのか。

事務局

5月の時に、市内に患者が発生したということで大騒ぎになった。局内がバタバタと倒れるという可能性がないともいえず、大人数が出入りする場所であるので、こうなったらこうしようというルールは設定している。ゲスト出演者についても、姫路市と申し合わせをしているのは、市内に外出を控えるような命令的なものが出たら、FMゲンキも来訪をご遠慮頂くというルールにしている。

副委員長

その場合は番組に穴が開く可能性もあるので、ある種の災害といえる。

事務局

防災パーソナリティを含めてどこまで対応できるか解らない部分もあるが、秋にインフルエンザが流行するという話も春からあったため、台風時期とインフルエンザの流行に間に合うように、8月から防災パーソナリティを設けた。

委員長

バイオハザード的な災害は想定していないのか。

事務局

姫路市については、インフルエンザ対策本部を作って対応されている。休校情報などもホームページなどに掲載されている。

委員長

シミュレーションのようなことは行っているのか。

事務局 机上訓練までしかない。具体的なオペレーション訓練は出来ていない。

副委員長 5月の時に大学でも混乱があった。県立大学はキャンパスが離れており、最初神戸キャンパスで発生したので休講になったが数時間毎に状況が変化していき、全校休講となった時に、学内放送の内容について騒ぎになった。キャンパスという限られた中でも情報が伝わらないということがある。どんな情報をどんな表現で流すかということは気をつけたほうが良い。

事務局 デマがどのように発生するかという事例だと思う。

局長 春にインフルエンザが発生したときに、3段階の対応を決めた。必要な情報を勝手に流すことは出来ない。市のほうからなり要請があつて、流している。

副委員長 大学の事例の場合は上も分かっていたいなかった。みんなが初めてというときは、上も万全ではない。上からとか決められているからというのが大丈夫というわけでない。上から言われた言葉を受け止める人間がどうとらえるか。そのあたりは新たに考えないといけない。

事務局 人が動く可能性があることを放送することは非常に慎重になる。FMゲンキとしては、いわゆる啓発的なものが一番目にくると思う。

委員長 FMゲンキという組織が警報を発するという事は無いので、それぞれの組織がこのような対応をするということを発信することが本来であろう。

事務局 それにプラスアルファとして、何を伝える事が出来るかではないだろうか。

副委員長 コミュニティ放送だから、リスナーが期待しているのは公の放送だけでなく、そこからどんなきめ細やかな情報が流れてくるかである。春のときでも、マスクはどこで売っているのだろうかとか、そういうことがあると思う。新しい状況ということで考えていくべきである。

委員 「パーソナリティのあなたに知ってほしい防災知識」の資料について、内容を放送してはどうか。大雨警報の基準や降り方など、知識を繰り返してリスナーに知らせることで、自己判断が出来るようになれば良い。結果的には自己判断が大切ではないか。佐用の洪水でもびっくりした。ちょうど直前に川のほとりを通過しているが、なんともなかった。家に

帰ってテレビをつけたら、災害が起こり亡くなった方がいたと。避難命令に従って亡くなった方もいる。避難が危ないと自分で判断して2階に上がっていたら助かっていたかも知れない。毎日繰り返してリスナーに勉強して頂くということも大事ではないか。

事務局

今回の佐用の件について、我々も「危ないと思ったら早めに避難をしてほしい」と常日頃から言っているが、では具体的にどういうことなのかと。一律でくくってしまえば、あのような事が起こってしまったら、車の中で閉じ込められてしまったりしてしまうのではないかと。常日頃から、このような事が考えられますよということを、日常の放送の中に付け加えていく事がどれだけ出来るかということが、大切だと思う。姫路市内で避難勧告や避難命令が出れば、FMゲンキもすぐに放送することになっているが、それまでの段階でもどんな判断材料を提供できるか。FMゲンキが独自にどこそこはどうして下さいとは絶対に言えないので、その手前の、こういうことがあればこうしてほしい、例えば、水が20～30センチを超えたら車は走れませんよとか、線路をくぐる道路は冠水して居るかもしれないから注意するよということをお伝えされるというところに、コミュニティ放送の役割があるのではないかと感じている。

副委員長

実家が愛知の山の方で、集中豪雨や停電をよく経験している。学生を実家に招待した時に東海豪雨があった。その時の学生の反応を見てびっくりした。停電の経験が無い、断水の経験がない、集中豪雨の経験が無い。まったくの無防備で、雨が降ったら雨音に注意するとか、窓をすこし開けておいたほうがよいとか、そのような発想が無かった。兵庫県の瀬戸内海側は気候も温暖で災害も少なかったと思うが、日ごろから言っていないと、なかなか浸透しないのではないかと。普段から豪雨のある地域に住んでいたから、ラジオを聴くとか、迂回ルートを調べておくとか、身についている。

委員

水害については、地域の川の周辺は地域の自主防災会が見ている。雨量によって対応している。

委員

防災パーソナリティに危機管理能力的な訓練は実施しているのか。

事務局

8月に1回実施した。以降、年に3回程度、特に水害に近い時期、阪神淡路大震災が起きた時期に、都度都度実施したいと考えている。外部講師を招いてということもやっていきたい。

委員

実際にパーソナリティがどのように表現できるかというシミュレーションはしているのか。

事務局 今は出来ていない。

委員 言葉というものが伝え方によっては恐怖心を煽るだけになる。そこで冷静に自己判断をもって行動しようということの考えができるようなアナウンス技術は常日頃からやっておかないといけない。そのようなことも念頭においてほしい。

事務局 必要なことである。雨が降ったときに「大雨洪水警報が出ました。注意して下さい」というアナウンスで終わって、FMゲンキはよいのかと。こんな事があるかもしれないということをしっかり伝える事が出来るということが必要である。そのための原稿などは順次用意していきたい。最近の事例を含めて、色々な事が分かってきた。そのようなものを反映しながら、FMゲンキとしてノウハウを蓄積していきたい。

委員 逆に佐用にいて現場の声を聞くという情報の収集も必要だろう。

委員 姫路市には市川や夢前川という大きな川があり、それに対して付随した川がある。いかにしてそれらの情報をキャッチするか。消防からの情報だけなのか。

事務局 1つの手段として川の防災情報というインターネットホームページがある。これは各地点の水位が10分単位で表示される。先日、姫路の河川事務所に、近隣局とお伺いし、担当者に情報提供の依頼を行った。どこに対しても、FMゲンキから問い合わせしていくという事が必要である。細かい場所については、リスナーから教えて頂き、裏を取るということもあるかもしれない。

局長 それは特殊なケースである。基本的なケースとして姫路市には防災対策の専門部署がある。その中で地元で問題が起こった時は姫路市に連絡が行き、そこから放送局に連絡が来るという大きなシステムになっているので、それに基づいて責任のある放送が出来る。特殊なケースとして、どこかの自治会から情報が入ってくるということがあるかもしれないが、今のところはそれはない。逆に市のほうに入っていく。それに基づいて、一つの流れに沿ってやっていくのが大事である。
研修資料について、私も参考になると思っている。今のところ、姫路市の提供で毎日防災情報を放送しているが、この資料のような情報についてはやっていないと思うので、市の防災担当にも話してみたい。

委員 さっきの番組アンケートについて、このような事があるのではないか。

元気人などでは、パーソナリティがその人の魅力をどう引き出すかという力にかかっているが、ありきたりの質問を控えてでも、出演者の言いたいことを目いっぱい行って頂く事が大切ではないか。数回出演した事があるが、1回は満足したが、もう1回は言いたい事がいえなかった。相手の質問をはずして自分のことを言うことはできない。質問されると答えざるを得ないが、ありきたりのやり取りになってしまい、心残りになったことがある。そういうことをパーソナリティに心がけていただきたい。

あと一つは、出演者の予告をしているのか。予告をすることで、聴く人も増えるのではないか。

事務局 パーソナリティについては、しゃべること以上に話をお伺いすることが大切であるので、気をつけていきたい。予告については、翌日分程度は言っているが、次週分をまとめてということについては、検討したい。

委員 番組のランキングについて、1や2の投票数で評価されるのはいかがなものか。作為的に動く可能性があるので気をつけて頂きたい。

委員長 FMゲンキは防災を重視して開局した経緯もあるので、意見を元に検討して頂き、防災啓発という面についても番組内で重視してほしい。

午後3時15分、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成21年10月1日

公表内容 審議の概要

公表方法 自社放送17時45分～18時00分「播磨ホット通信」内

事務所据え置き、ホームページ (<http://www.fm-genki.com>)

以上